

2018.11

- ▶ 第24回モリサワ文字文化フォーラム「絵を描く(えをえがく)」
- ▶ フォント あ・ら・かると:「墨東N」
- ▶ DTP人生相談室:Photoshop CC2018の「被写体を選択」について
- ▶ イベント情報

今月の
フォント

- 本文:秀英横太明朝 (M)
- 見出し:新丸ゴ(DB) + カモレモン(DB)

www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news

第24回モリサワ文字文化フォーラム「絵を描く(えをえがく)」

2018年8月30日(木)第24回モリサワ文字文化フォーラム「絵を描く(えをえがく)」は、個性的な目を持つキャラクターをはじめ、独自の創作スタイルを貫くイラストレーターの上田バロン氏、グラフィックアーティストとしてハリウッドをベースに活躍するカズ・オオモリ氏、タイプデザイナーでグラフィックアーティストのサイラス・ハイスミス氏を招き、定員の150名を超える来場者がモリサワ本社4F大ホールに集まり開催された。

第一部 『character versus character』 サイラス・ハイスミス氏

冒頭「タイプデザイナーであり、本も執筆し教鞭もとっているが私はグラフィックアーティストだ」とハイスミス氏は語り始めた。ハイスミス氏の作品は、簡潔な構図、あたたかみのあるイラスト、絵と一体感のある絶妙なフォント、スタイリッシュな配色が鮮明な切り口で表現され、それを観た側は質の良いデザイン性の高さと内在している優しさを感じるものであった。ハイスミス氏は「絵を描くことが好きで、私が一番大切にしていること」と話し、「今回のテーマになっているcharacter(キャラクター)という言葉には「私が書く字」と「漫画や本、映画に出てくる登場人物」二つの意味がある」と説明した。

ハイスミス氏は「絵を描く」という定義と哲学を「絵は、物語を語るという〈目的〉を持って描くなくてはならない。〈目的〉を持って描くと作品の展開や世界を〈暗示〉できる。物語を語り、さまざまな展開や世界が加わると、観る側と〈対話〉が生まれる」と語り、「これはひらがなを勉強するという〈対話〉」だと、日本語で書かれた絵本『あり いぬ うさぎ』を紹介した。

『あり いぬ うさぎ』は、ハイスミス氏がイラストを担当した。プロジェクト発足当初、ハイスミス氏は他の日本語のわかるデザイナーにレタリングを依頼しようと考えたが、不慣れなひらがなと読者層である幼児との書字レベルが同じくらいと感じ、自らひらがなのレタリングに挑戦した。「〈レタリングと絵〉それが近い関係にあり、同じ手づくりしたいという想いが実現した」とハイスミス氏は語った。

続いて、Occupant Fontsで制作した『HOW TO SPEAK ROOSTER』(どうやってニワトリ語を話すか)という冊子に話は移った。『HOW TO SPEAK ROOSTER』には、世界中でニワトリの鳴き声は同じなのに、国ごとでさまざまに表現されている面白さをテーマに、言語にあった書体とその書体からインスピレーションを受けた雄鶏のイラストが見開きで描かれていた。Occupant Fontsのカatalogにもなっており、「会議で配っても捨てられるものではなく、大切に家に持って帰りたくなるような資料をつくろうと生まれたものだ」と語った。

次に、プライベートな「絵を描くこと」に話は移った。「スケッチブックを10年間どこに行くにも持ち歩き毎日描いている。ある意味、自分との〈対話〉だ。ここにも物語があり、絵を描くときには目的意識がある。ストーリーを語るマークになる。目の前にあるものを、手元を見ずに輪郭やシルエットだけ描くことを始めた。このような輪郭を描く練習のおかげで、自身の絵がページのうえで単なるマークではなく〈物体の境界線〉となっている線を描くこととなり、すなわち〈スペースの形を描く〉という自身の哲学につながっていった」と語った。

「文字を書くということは、絵を描くということの定義と哲学を実践に移すということにある。良いタイプフェイスは手書きのようなもの。内部の論理と確信がなくてはならない。それがあって初めてお互いがピタリと合う。しかし、手書きと違いタイプフェイスはコンピュータの輪郭である。私の描くという基本原則は、スケッチブックでの輪郭を描くところからきている。ベジェ曲線で鍛錬されて強くなっている。マークや筆の運びが重要ではなく、白と黒で空間を捉えることができるということ。〈形〉と〈空間の形〉の関係性に目を向けること。言い換えると、輪郭を描くというのは純粋な絵を描くという行為そのもの。ベジェ曲線だからこそタイプデザイナーは面白い文字をつくることができる」と語った。

ハイスミス氏は「私の話に何か共通点を見出し、絵や線を描く、マークを刻印することで物語を語っていくということが伝わればと思います」と締めくくった。



▲サイラス・ハイスミス氏



▲『HOW TO SPEAK ROOSTER』

第二部 『Hollywood works』 カズ・オオモリ氏

ウォルト・ディズニー・スタジオでグラフィックアーティストとして活躍している、カズ・オオモリ氏。独自の切り口でビジュアル化されたアートワークは、ポスターやチケットなど幅広く展開され、映画本編に新たな価値とさらなるエネルギーを与えている。

ディズニーから依頼された映画のビジュアルを描いていく際、「ほんの少しのインフォメーションから多くの部分を想像で進めなければならない」と言う。最初に制作するのは1枚のページにラフスケッチとファイナルワークを入れたカズ氏のオリジナルのスタイルシート。「それを見せることで、クライアントは最終のビジュアルが想像しやすい。仕事の取り掛かりはクライアントに、さまざまなアイデアをラフスケッチで提案しなければならず、普段からネタ帳を持ち歩き連想ゲーム的に小さな落書きのようなサムネイルをたくさん描いている。一つのプロジェクトに30〜50考え、その中からピックアップして必要なものを組み合わせて描く。インスピレーションはどこから湧いてくるかわからないので、常に種を蒔いておくことが必要」

だと語った。

紹介してくれたのはディズニー／ルーカスフィルム『スター・ウォーズ／最後のジェダイ』。そのポスターのアートワーク担当の話が始まる。「さまざまなことを想像で進めていった。各キャラクターのシズルを感じる〈らしいポーズ〉を探るためスケッチを繰返し描いていった」と言う。ルーカスフィルムからOKが出ると、カラーのラフスケッチに入る。次にIllustratorでトレースをして、ひとりずつキャラクターを描いていく。最後にPhotoshopで、すべてのキャラクターを合わせ、加工を施し完成させる。完成されたポスターではダークサイドにいるカイロ・レンも、それほどダークに描かれていない。カズ氏は「次回作へつながる謎の部分や予測できない面白さも、このビジュアルに入っている」と言い、「ディズニーは、デザインに関して口を挟むことは少なく、方向性さえ決まればこちらから提案することが多い。良いアイデアを称賛し即座に取り入れる柔軟な姿勢を持っている」と語った。

続けて「映画のポスターはコンピュータを一切使わず、カンプリヘンシブと呼ばれる精巧なスケッ

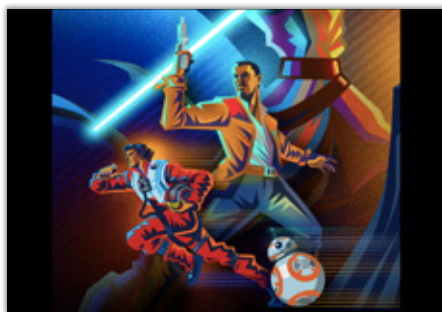
チ画を描くことから始まる」と言う。「まず、スケッチ画を描き、それをトレーシングペーパーに写す。鉛筆カーボンを使い、それらを重ねて描くとカーボンの線が薄く残る。これをベースにしながら手描きで仕上げていく。このスケッチをハリウッドのスタジオに送る。ディレクターやプロデューサーなどの名前が入る空間を考え、バランスをとりながら絵を描く、その兼ね合いが非常に重要だと話す。そのポスターに合う仮の書体でタイトルを入れて欲しいと言われることもあり、そのときにはオリジナルのレタリングを入れると語った。

コミックやポップカルチャーの大イベント「New York Comic Con」で、ディズニーが『BIG HERO 6』（日本上映時のタイトルは『ベイマックス』）を初披露する際、そこで記者へのギフトとして配られた『BIG HERO 6』のポスターのアートワークも彼の作品だ。配布されたポスターは、ディズニーのオフィシャルサイトにも登場。「New York Comic Conでも多くのSNSで取り上げられ、日本の公開に際しても名前がでる異例の対応を受けた」と語った。

最後に、関西ペイント株式会社の100周年記念のアートワークを紹介。カズ氏のイラストでヒーロー化したマンチェスター・ユナイテッドの選手がアニメーションで登場するムービーを観せた。今までポスターなどイラストとしてしか見ることのできなかったカズ氏の絵がスピード感ある動きでヒーローさながらのシュートを放つ。これからの仕事の広がりを感じさせながら、講演を締めくくった。



▲カズ・オオモリ氏



▲『スター・ウォーズ／最後のジェダイ』のアートワーク

第三部 『なぜ？ ボクがいばらの道を進むのか。セルフブランドと絵のはなし。』 上田バロン氏

デジタルアートを中心に、さまざまな可能性を探りながら縦横無尽に仕事の領域を拡大し続けている上田バロン氏。イラストレーターとして、自身の信念に基づき誰が見ても彼の絵だとわかる独特のスタイルを築き上げた。

モード感漂う大きなサングラスにスタイリッシュ

な出で立ち、隙のない雰囲気漂うバロン氏だが、語る言葉は真摯であたたかく気負いが無い。自身のスタイルを築き上げ、すべての人を対象にするのではなく、仕事の数は一減ってしまうだろうが絵を気に入ってくれる人たちにに向けて仕事をしようとして『BARON UEDA 5 Style』を掲げ、絵のスタイルにブランド性を持たせていった。

独立して間もなく、「デジタルタイポグラフィの潮流に感化され自身の仕事に使用するためにフォントをつくった」と言う。『F-Wire』、針金のようなという意味のフォント名で7ウエイトあり、その書体だけでもバロン氏のスタイルを彷彿とさせた。グラ

フィックの仕事から徐々にイラストレーションの仕事に舵を切っていく、2005年にその年のすべての依頼がイラストレーションの仕事だけで成立することになった。それを機に名刺からグラフィックデザイナーの肩書を取りイラストレーターだけを掲げることとなる。

バロン氏は「他人の評価や流行に合わせるのではなく、自分が真に信じてことができ、その作品の中に自分が描いて楽しいと思える部分を見いだすこと。ニーズとは逆行しているように思えるが、それが最大の強みになる」という信念に基づき、それを自分自身で証明している最中だと話した。



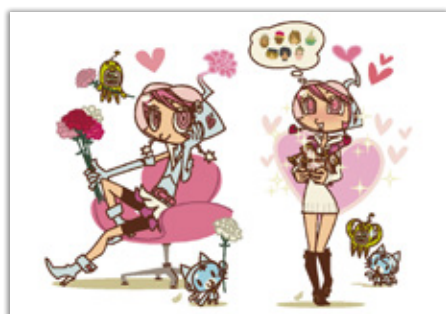
▲上田バロン氏

『BARON UEDA 5 Style』

- ① 強烈な個性の目
- ② 積極的な風合い
- ③ 力強い線
- ④ 印象に残る色
- ⑤ パースを入れた構図

会場スクリーンにバロン氏のIllustratorの作業画面が映し出され、作画プロセスを実演。Illustratorを使用する理由として「データの軽さや解像度の高さ、ピクセルから解放されているため極小さなものから、サイズの限界を嘆くことなく巨大なものまで絵を描くことができる」という点をあげ「シンプルな線と色、単純なエレメントで特殊なソフトや複雑な表現で個性を出すよりも、Illustratorのようなマチエールやタッチのない、フラットで個性をつくり出すことができれば、究極的にその表現のほうが強いのと思っている」と話す。話しながら数分で、自身がデザインしたキャラクター『AI BEAR』のキュートな姿が描き上がった。

自分のスタイルを崩さず、やりたいと思う仕事を選んでやってきている点でいうとアーティストに近いが、「広告やメディアを通して企業がメッセージとして伝えたいことを表現していきたい。自



▲バロン氏の個性的な目を持つキャラクター

身のデジタルアートは、空白を埋めるためだけのイラストレーションではなく、多くの人に何かを伝えられる、さまざまな分野の領域を超えたソリューションを担える力が備わっている。そして、その役目を果たしていきたい。活動領域はこれからますます広がりを持つと確信している」と話す。

セルフブランドに対して最初は悩むことがあった。そんなときは「ルイ・ヴィトン」や「カルティエ」、「イームズ」など、時代を超えてデザインや価値を生み出し続けているブランドに目を向けた。支持しているユーザが存在しているから淘汰されず現在も生き残っているという思いに至り「自身の絵もそうでありたい」と語る。

今回の講演テーマである「絵を描くとは?」に話

が及んだ。なぜ個性の強い目で彼の作品だとわかる表現を追求しているか、それは「自分が前に出るのではなく、生み出した作品が、だれかを楽しませたり助けたり世の中の役に立ってくれたり、時には自分を救うことにもなっている。それらを生み出してきたものは、究極的に自分が描いたんだという痕跡を誰しも残したいと考えるものだ。それが絵を通しての〈自己存在証明〉だと考えている。それが絵を描くことの答えだ」と締めくくった。

3時間を越えた第24回モリサワ文字文化フォーラムは、それぞれの講演者が三者三様の創作や表現活動、クリエイティブワークについて講演し大盛況のうちに閉演した。



永 フォント あ・ら・かると

ぼくとう 墨東N

▶ 今月のあ・ら・かるとでは、クラシカルな印象漂うかな書体の「墨東N」をご紹介します。

「墨東N」は、古典的なかなの骨格をゴシック体に活かしたかな書体です。

かな本来ののびやかな形を損なわないようデ

ザインされており、飽きのこない美しさと強さの中に、しっかりと落ちついた上品な趣きを備えています。

「ゴシックMB101」や「新ゴ」に合わせて7ウエイトでファミリー展開されており、オールドからモダンまで幅広いスタイルの漢字と組み合わせる使

用することができます。また、デザイン書体の「タカハンド」と合わせてみても、通常とは一味ちがうやさしげな印象を表現できるのではないのでしょうか。

長文で組んでも読みづらくならないので、雑誌などの本文や小見出しからタイトルまでオールラウンドに使用していただけます。



●使用例

[ゴシックMB101 DB]

情緒あふれる秋の街並み

[ゴシックMB101 DB+墨東N DB]

情緒あふれる秋の街並み

[タカハンド B]

情緒あふれる秋の街並み

[タカハンド B+墨東N DB]

情緒あふれる秋の街並み

*墨東Nは合成フォント機能でサイズを93%に設定

「墨東N」は、『MORISAWA PASSPORT』をご契約のお客様はいつでもインストールしてご利用いただけます。『MORISAWA Font SelectPack 1 / 3 / 5』およびWebフォントサービス「TypeSquare」でもご利用いただけます。

飯田橋の母が斬る!

DTP人生相談室

人生相談師「飯田橋の母」こと武蔵野ふみ子先生が印刷会社勤務時代の経験を活かし、迷える現代人のお悩みをDTPの力で解決します。



今回のテーマは—— Photoshop CC2018の「被写体を選択」について

お悩み「最近の若者は楽をしている」

ペンネーム：枇杷の名産地

ふみ子先生こんにちは。最近イライラしていることがあります。それは最近の若者についてです。何をしてもインターネットとスマホで済ませて、楽をしすぎじゃないでしょうか！ もっと苦労しないと、人間として大切なものが失われてしまうのではと心配です。

この文章を書きながらも、だんだん胃がむかついてきました。どう思いますか？ ふみ子先生！

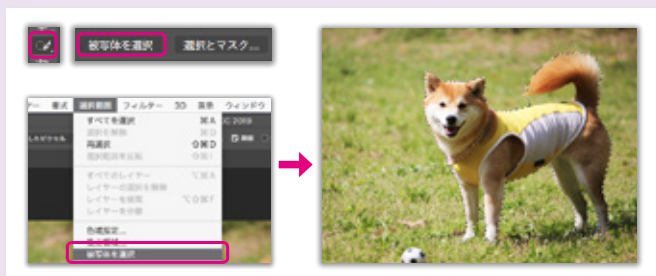
私も縄文時代と比べると、火おこしとか狩りとか、生きる上で大切な技術を失って楽して暮らしているけど、当時の方々と比べると、七輪でサンマを焼くスキルでは負けないわ。若い人は私ほどうまく七輪でサンマは焼けないし、焼く機会もないだろうけど、その分スマホやインターネットで、大量の情報を瞬時にさばくことに長けているわ。これも培われたスキルの一つよね。長期的に見れば、苦労の跡は常に忘れ去られ、そして新たに生まれているのよ。時代が変われば求められるスキルも違うけど、それぞれに優劣はないんじゃないかしら。



な新機能を開発してきたわけだけど、最近さらに「被写体を選択」機能が追加されたわ。この機能では、Adobe独自開発のAI「Adobe Sensei」の力で、**1クリックするだけで被写体を自動認識して選択**してくれるわ(図①参照)。苦労して作業をしていた身からすると、「今のオペレータはソフト任せで苦労が足りないんじゃない?」なんて思っちゃうこともあるけど、速くできるってことは手を抜いてるってことじゃなくて、その分**完成度を上げるための作業**(図②参照)により注力できるってことよね。技術革新のおかげで、後輩によりよい時代を届けられて光栄に思うわ。

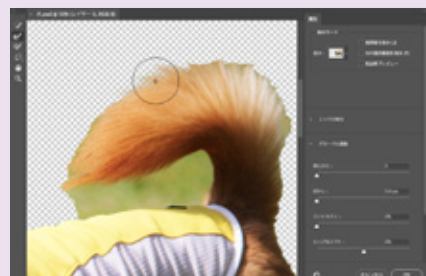
世の中が便利になると、過去の自分の苦労を価値あるものとして、つい美化したくなるわ。前職の話だけど、私のようなDTPオペレータが常に頭を悩ませていた作業がPhotoshopの「切り抜き」よ。写真の使いたい部分だけを囲う作業だけど、背景が込み入っていたり輪郭が複雑だったりすると、囲うのも一苦労。だからAdobeは、切り抜きのためのさまざま

ちょっと話がそれちゃったけど、置かれた環境や時代がどうあれ、人は誰も見えない苦労があるもの。情報化社会では、他人の生活のうわべが見えやすくなったから、いい部分だけ見て憎しと思っちゃう人がいるけど、無駄なストレスを抱えないようにするのも、現代社会を生き抜くための技の一つかもね。少しでも参考になるといいわ。



① ふみ子's ポイント

機能を使う方法は2つ。クイック選択ツールを選択中にオプションバーに表示される「被写体を選択」ボタンをクリックするか、「選択範囲」メニューの「被写体を選択」ボタンをクリック。これでもう自動的に選択範囲がつくれるわ!



② ふみ子's ポイント

この機能だけじゃ荒い部分もあるから、今までどおり微調整は「選択とマスク」機能などを併用してどんどん完成度を上げていきましょう。

イベント情報

Embedded Technology 2018 ／組込み総合技術展

会期：11月14日(水)～16日(金) 10:00-17:00(15日は18:00まで)
会場：パシフィコ横浜 併催：IoT Technology 2018／IoT総合技術展

文字組版の教室 (東京開催)

開催日：11月30日(金) 10:00-17:00 会場：株式会社モリサワ 東京本社 9F・セミナールーム
概要：文字組版のルールに関する考え方や捉え方を学ぶこと、そしてデジタルフォントと組み合わせた場合の文字組版の要点を考えることを中心とした1日セミナー
詳しくは、<https://morisawa.eventcreate.net/event/2745>

編集後記

11月に入り、肌寒さを感じる季節、紅葉シーズンを迎え、そろそろ次年度の計画を考え始める時期でしょうか。とは言え、まずは今年の計画を達成することが重要です。モリサワが春から取り組んで参りました「IT導入補助金」申請もいよいよ11月19日で第三次公募が締め切られます。これまで補助金活用で多くのお客様に弊社製品をご導入いただき、ありがとうございました。今現在も導入を検討中のお客様は、ぜひこの機会を生かし駆け込み申請をお急ぎください。

✉ E-Mail: m-news@morisawa.co.jp

発行：株式会社モリサワ 企画・編集：プリンティング事業部 営業企画部
※記載されている会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

モリサワ

www.morisawa.co.jp

株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪府浪速区数津東2-6-25 Tel:06-6649-2151
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-27 Tel:03-3267-1231
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel:022-296-0421
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel:052-201-2341
札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6 サウスシティ2F Tel:011-700-0112
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel:092-411-5875
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田ビル2F Tel:099-252-2255